

みやけの風

第 250 号

平成17年(2005年)11月26日(土)発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア・市民活動センター 気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

早いもので来週にはもう師走。避難指示が解除されてから10ヶ月が経ちます。それぞれのなかにはどんな想いがあるのでしょうか。あせらずぼちぼちいきましょうね。

みんなの声

2005年アカコッコ館 ボランティアワークキャンプに参加して

アカコッコ館主催の、森の中の自然観察路作りに、11月20日～22日にかけて参加しました。

この、小道作りは事前にレンジャーが、アカコッコ館のフィールドの中の茂みの中に、作る予定コースを目印のリボンを順々に結んでおいてくれました。鎌やのこぎり、茂みの中を整備していくのですが、できるだけ、木やめずらしい植物を、傷ついたり、切らないように、選び、考えながら進めていきます。まっすぐ行くと、樹木があるときは、すこし回り道をします。そんな、真心を込めながら、小道を、6名で作りました。

心地よい汗をかき、野鳥たちのさえずりを聞きながらの、楽しいひとときとなりました。約4時間ほどで、開通しました。みんな、ニコニコ喜びました。そのあと、小道に名前をつけて、看板を、スギの枯死木で作りました。2日半の作業でした。

みなさま、どうぞ、<さえずりのこみち>と彫刻刀で彫った手作りの看板をごらんになって、自然観察路を楽しんで歩いてください。不思議な気持ちにきつとなれる小道ですよ。

(伊豆地区在住 穴原 美奈)

おすすめ!

三宅村立小学校では、日々の活動を順次ホームページで公開しています。

<http://schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=1310002>) ぜひご覧ください!

第20回三宅島合同音楽会

三宅島合同音楽会本番、ひな壇に立った子どもたちはやや緊張気味でしたが、練習の成果を十分に発揮することができました。やり遂げた満足感が、発表を終えた子どもたち一人ひとりの笑顔に表われていました。保育園・中学校・高等学校・アカコッコ合唱団(三宅島島民合唱団)・風の家(島の高齢者の方々を中心とする暮らしの支援を目的とした島民ボランティアが運営)の方々の発表もどれも皆すてきでした。発表が終わる度に、われんばかりの拍手が起こり、会場にいる人たちが一つになってみんなで作り上げている音楽会という感じがしました。

*来賓・保護者・一般の方々のアンケートより

(一部抜粋)

「久しぶりの合同音楽会、とても楽しく参加させていただきました。児童・生徒の明るく元気な姿と歌声に胸が熱くなり、思わず涙ぐんでしまいました。また「風の家」や「アカコッコ合唱団」も参加し、とてもよい企画だと思います。明るい歌声が島じゅうに広がり、島が希望と元気に満ちあふれるといいですね」

(三宅村立小学校 ホームページより)

「みやけの風」250号特集 ～リード文、振り返るあの頃～

みやけの風も第1号発行より丸5年となりました。長い間、ご愛読ありがとうございました。今回は読者生活を振り返り、みやけの風リード文の中から一部をお届けします。

「みんなどうしてるだかナー。こりゃア思ったより長くなりそうだよ」「だから」「電話で話ができるようになったけどよオ、やっぱ会いてェよナー」「今度みんなが集まるっていう話だよ」「まさか?」「なんだまア知らねェだかよ」「イェー、オラ知らネエぞ」「何だかそういう話になってるみたいだゾ」「ンじゃ、みんな誘ってくべな」「だからァー」

【みやけの風6号 平成12年(2000)11月20日(月)発行より】

「あつたかくなってきたな～」「だから～」「桜もこれからは八重がさくじよ」「でもよ、ウグイスの声が足りねえよな」「島じゃ鳥ッコが容易じゃなかったからな」「懐かしいよな～」「ところで4月15日は、あいべよ～」「おうよ。みんなで行くべえよ」

【みやけの風26号 平成13年(2001)4月7日(土)発行より】

「連休中はどうしただよ」「ん～。まあ、ちっとは休まねえとな」「だから。走りっぱなしじゃ体をダメにしつからよ」「おうよ。けっこう無理してきたからなあ」「同じ無理しんでもよ、土いじっている時はちがったぞ。ナスだピーマンだって、この時期にや植えたじよ」「芋もせえたし、お茶も摘んだじよ～」いろいろ思い出す春ですね。

【みやけの風29号 平成13年(2001)5月12日(土)発行より】

「やっと、帰れるっちな」「おうよ。そのニュースは嬉しかったなァ」「だから。どんな順番でもいだからよ、一度は家もみてえよな」「おうよ」「島はどんなだかし」「どんなになってもよ一、そっから出発するしかねえだからよ」「だから。島はみんなのもんだじよな」

【みやけの風34号 平成13年(2001)6月16日(土)発行より】

「いよいよ一年だじよな」「思い出すよなあ」「あんときや、こがになるとは思わんかったじよ～」「だからあ」「みんなよくがんばったじよ～」「一年はなげえよなあ」「こないだの島民会でも大学の先生が、これくれえんときが一番つれえて話をしたぞ」「そうだじよな」

【みやけの風36号 平成13年(2001)6月23日(土)発行より】

「しかし、きれいなもんだな」「何がよ」「木という木に豆電球つけてよ～。去年もこんなだったかし?」「去年は何だかバ～タバタしててよく覚えてねえよ」「おうよ」「クリスマスの飾りが目に入るだけ、落ち着いたってことかし?」「それは何とも言えねえな。それよりも、おら電気代が心配になっちまってよ～」「だから。自分が払うんじゃねえのにな」「島でも若い衆らが鉄砲場で飾りを作ってたっけな」「おうよ。なつかしいな」「クリスマスも過ぎりゃあ、ハイ年越しだじよ」「お～い。みんな元気だかよ～。正月が来んぞ～」

【みやけの風60号 平成13年(2001)12月22日(土)発行より】

「ん?確かに聞こえたぞ」「何がよ?」「待て、待て...ほら、やっぱり」「おー、ウグイスだじよ」「『ホーペチョ』って、あらあ、まだ、練習中だな」「だから」「梅も咲いたし、これからは春だな」「島でも鳴いてんだかし?」「おうよ、島のウグイスはもっと上手く鳴いてるって」「おうよな」

【みやけの風66号 平成14年(2002)2月9日(土)発行より】

「や～っと蝉も鳴き出したな」「な～んたって台風が二発も来ちまったもんだから、空も秋の雲だじよ」「だ～から。蝉も調子狂っちゃったじゃねえ?」「東京の蝉はミ～ン、ミ～ンって、あれにそばで鳴かれんとけ～っこうウッセエぞ」「あのチッコな体でな」「7年も土ん中にいただから、やっとオラの番だって張り切ってんずらじよ」「そう考えれば、ハイ、思いっきり鳴かしてやるべな」「だから」

【みやけの風88号 平成14年(2002)7月27日(土)発行より】

「何だよ、まあ、また暑さが逆戻りだじよ」「台風があのコースじゃ、南風(みなみ)がまともだからな。アッチイわけだじよ」「それでも、夜になりゃ虫ッコが鳴いてるだから、いくらか秋の気配もしてきたっけじよ」「月もきれいに見えるしよ」「それでも、島の月にはかなわねえよ」「ああ、ありゃあ、きれいだったからな。海も金色に光ってよ～」「ところで、対話集会が始まっただな」「みんなが集まってざっくばらんに話し合えば必ず見えてくることもあるだから、ここはみんな協力して頑張るべな」「だから」

【みやけの風92号 平成14年(2002)8月31日(土)発行より】

耳より情報

ジュニアフォトグラファーズin三宅村立小学校

この6月に実施した自然体験教室の時に、子どもたちがデジタルカメラで撮影した三宅島の自然等の写真が、他の地域の子もたちの写真とともに写真展で発表されました(11/2～7 六本木ヒルズ内 テレビ朝日1F)。そのときの展示物が学校にも送られてきましたので、職員室前の廊下に12/1まで展示する予定です。どなたでもご覧いただけます。ご来校の折りには、是非ご覧ください。

場所：三宅村立小学校 三宅村伊豆468 お問合せ：04994-2-0039

「みやけの風」へのご意見・ご要望を、三宅島支援東京センターまでお聞かせください。